第２８期新潟市社会教育委員会議

実施年月日	第１０回　　平成２１年7月１３日（月）実施		
会　　場	市役所白山浦庁舎２－４０３会議室	傍聴人	０人
会議内容	開会 １．協議事項 （１）　第３期生涯学習推進基本計画案（第５章～第６章）について ２．その他 （１）　９月以降の会議開催日程について （２）　（社）全国社会教育委員連合「平成２１年度（第１回）助成の公募」について		
出　席　者	【社会教育委員】 伊井　昭夫　　内田　健　　笠原　孝子　　齋藤　勉　　新藤　幸生 中村　恵子　　長谷川　央子　　真柄　正幸　　南　加乃子 【事務局】 八木教育次長　　玉木生涯学習課長 土田豊栄地区公民館長　　上西坂井輪地区公民館長　宮本巻地区公民館長 福島大畑少年センター長　　鈴木係長　　池田主査		

会　議　録

（事務局）
ただいまより第28期社会教育委員会議　第１０回を開催させていただきます。
資料について説明いたします。―省略―　それでは進行を議長へ渡します。

（齋藤議長）
全体をとおしてご意見があるかと思いますが，ページを追って進めます。事前に笠原委員と藤澤委員から意見が出されておりますが，該当のページにいきましたら，お願いします。
それでは，第５章の１から協議を始めたいと思います。執筆担当委員は説明をお願いします。

（南委員）
第５章の１　　―　音　読　―

（笠原委員）
前回，学習成果を評価するシステムをここに入れて欲しいということで，赤字で書いている文字が入ったのだと思います。ですが，文言で入れるのではなくて，具体的な施策のところに入れていただきたいと思います。前回にも話しましたが，第２期の計画で事業名として入っておりました。ここでは事業名として，具体的なものとして，施策の中に入れていただきたい。

（齋藤議長）
具体的施策として，１ページ目にでしょうか。

（笠原委員）
１ページ目に文言が入っています。文言は，齋藤議長が書かれているところ（基本方針）にも入っていますので，「（１）学習成果を活用する施策の展開」に入れるか，要するに具体的施策の中で，できれば事業名としてあげてもらいたい。平成２１年度にこれを取り上げるという説明がありましたので，入れてもいいかと思います。

（齋藤議長）
１ページの下３行に＜具体的施策＞として赤丸が三つあるところの後ろに付けるか，前に付けるかでしょうか。

（笠原委員）
生涯学習センター事業であがっていたので，センターのところだと思うのですが。

（南委員）

「学校では」「家庭では」「地域では」と書いてある，「地域では」のところに付けますか。

（笠原委員）

「地域では」の生涯学習センターのところかと思うのですが。

（齋藤議長）

「地域では」のところに入れるということです。前回も指摘があったところです。他にお気付きの点はいかがでしょうか。

「学校では」のところにある「教育コーディネーターの活用」は，南委員・藤澤委員はどのようなものを思い浮かべられていますでしょうか。「教育コーディネーター」というのは，今，新潟市にはないものです。これは新たなものを想定しているのか，今やっているものなのか。

（南委員）

今やっているものの充実を図るということです。

（齋藤議長）

今やっている正式名称は？

（生涯学習課長）

「地域教育コーディネーター」です。

（齋藤議長）

そういうふうにした方が分かりやすいかと思います。

（真柄委員）

今の関連で，地域教育コーディネーターの配置となりますと，「地域と学校パートナーシップ事業」の一環として，事業推進校の拡大も同じことになってしまいます。

（南委員）

そうしたら，「地域と学校パートナーシップ事業の推進」１本にした方がいいかもしれません。

（齋藤議長）

言いたいことは，それで通じますか。

（南委員）

コーディネーターというのをしっかり言っておかないと，不安な感じがして別に書いたのです。

（真柄委員）

私も大事だと思います。今，学校でも地域教育コーディネーターを活用しながら，地域と学校パートナーシップ事業や，ふれあいスクール事業をやっています。ここでは地域教育コーディネーター一つに絞って，事業促進校の拡大は，地域と学校パートナーシップ事業，ふれあいスクール事業の推進というところにつけたらいいという気がします。

（齋藤議長）

「学校では」のところは，真柄委員がおっしゃったように「ふれあいスクール事業の推進」は事業が別だから三つ目に加えて，「地域教育コーディネーターの活用」は，１ページの下の方の具体的施策の方に入れるという整理でよいでしょうか。

（南委員）

１ページの下に記載した「コーディネーター」は，もう少し幅広い意味で，いろいろな場所でコーディネーターが必要だという意味を入れました。それで，上の方は今，行っている地域教育コーディネーターの活用の充実という意味です。

（齋藤議長）

では，「地域教育コーディネーターの活用」は，生かしておいたらどうですか。事業の推進の方は推進で挙げておいて。ふれあいスクール事業は，それはそれで位置づけていくと。

（南委員）

はい。

（真柄委員）

具体的施策の主体がどこなのかというのをお聞きしたい。「家庭では」の一つ目「きめ細やかな情

報提供や相談対応による家庭教育の推進」というのは，例えば情報提供を行うのは行政であり，相談対応によって家庭教育を充実させる。家庭教育の推進というのは，具体的にどういうことなのか。

（南委員）

家庭の教育力を高めるということも，行政の施策として進めていくべきものと思います。

（齋藤議長）

全部行政のことを書いてあるのでしょう。実際やることは，情報提供と相談対応。

（真柄委員）

関連して今の質問ですが，「（１）②活動をコーディネーターしたり，リードしたりする人たちの育成」というのは，前回の案で表の中の下にあった具体的施策をこちらに出したということですか。指導者養成は消えたということでしょうか。

（南委員）

リーダーの養成ということでまとめました。

（齋藤議長）

１ページの下から２番目の赤丸ですね。

（南委員）

はい。最初の分担では，五十嵐委員と私と半々とで分担したのですが，五十嵐委員から藤澤委員に替わられ，藤澤委員から熱心に見て直していただいています。書き方の調子が揃っていないところを直すという意味で，文章の最後に具体的施策をまとめる形に統一しましょうということで直しました。

（齋藤議長）

指導者養成は，内田委員のところでも出てきます。またトータルで見直すときでもいいかと思います。まず，リーダー養成ということでまとめたということです。よろしいですか。

それでは，２ページ目。これは，事前に笠原委員から意見が出ていました。

（笠原委員）

図の右と左に，どういうふうに区別したかをご説明いただきたいのですが。何で分かれているのか，基準が分からない。（右側の）「活動する人たちと団体」も生涯学習資源だと思います。箱ものと人ということで分けたのかなと思うと，またそうでもないし，どういう基準で区別したのか。

（齋藤議長）

振り分ければいいということですね。ただ，国立社会教育研究所から出ているものも，資源という見方で全国調査をした報告書があります。人とか団体とか事業とか施設とかで割り振っているように思います。ですから，ここは割り振ればいいのではないでしょうか。右側を「人と団体」にして，左側はそれ以外。活躍する人や，世代などはどうしても入れたければ右の方に出して。学校は施設だから，左に移動させるとか，そういう形で整理をかけるとどうでしょう。そしてまた，出てきた段階で見ていくことでどうでしょう。五十嵐委員からの引き継ぎとのことですので。では，図のところをもう少し整理をするということです。他にお気付きの点はございますか。

（中村委員）

「（２）様々なボランティアの活用」ということで，いくつかのアプローチがあり，一つは，企業などへのアプローチ，また，生涯学習の講座に参加している人たちなどから引き出していくという案が書かれています。もう一つ，どこに位置づけたらいいのかよく分からないのですが，例えば看護師や保育士など特別なキャリアを持っている人たちについて，既にボランティアとして活躍している人もいると思うのですが，気持ちがあっても，どこがとっかかりになるか分からない人もいるという声を聞いたりするので，そういう特別な資格やキャリアある人たちを結びつけていくことが必要になると思うので，どこかに入れていただけるといいかと思います。特別な技能を持っている人たちの活用について。

（齋藤議長）

二つ記載されており，その次に意識調査に触れる形になっています。

（中村委員）
アクティブシニアともだぶるところはあると思うのですが，別な視点として。
（南委員）
（２）の文章中に入れた方がいいでしょうか。
（齋藤議長）
（２）がいいのではないでしょうか。専門的なキャリアや資格を持っている人。新潟県立自然科学館は，新潟大学を定年で辞められた名誉教授がボランティアで協力しています。内容が専門的なものですから。
２ページ目の最後について「考えられる。」という語尾は「必要もある。」とはっきり書く方がいいのではないかと思います。では，３ページ目に入ります。
（真柄委員）
ここでは，ボランティアの活用を言いきるのに対して，具体的施策に活用という場面が見えない気がします。公民館や社会教育施設のふれあいで学んだ成果を，学校やいろいろな場所で活用するということが，社会教育法の改正でうたわれてきています。そうすると，具体的施策のところで，先ほどは指導者研修について触れましたが，まず，ボランティア研修や，自分のボランティア体験を生かしたい，学んだことを生かしたいという人たちを対象にした研修があって，この「活用」のところで，どこが主体になって活用するのかというところが施策として出てくると，一貫性があるのかなという気もするのです。どこに入れたらいいのかというのが，ちょっと私も。下には触れていませんよね。
（南委員）
「（２）様々なボランティアの活用」の施策として，どこまで踏み込んでいいのか，正直，迷ったところです。むしろ揉んでいただいて，ここくらいは書くべきだというようなところがあれば，教えていただきたい。施策の部分は，ここまで言い切っていいのかというのがかなり悩みでした。
（齋藤議長）
私は，例えば①であれば，「各公民館等の講座やイベントなどでのボランティアの活用の充実」と表記してはどうかと思います。講座やイベントの充実の中身が分かるように。（２）様々なボランティアの活用と，（３）アクティブシニの可能性を～，の線をどの辺で引くかというのが，真柄委員のお話かと思いますが。
（笠原委員）
下から７行目に「動けない高齢者」とありあすが，「動けない高齢者」という表現に抵抗があります。「活動範囲が比較的狭い」というような表現にできないかと思います。「動けない高齢者にかわって表現することや」とありますが，動けない高齢者というとすごく高齢で，本当に動けないような気がするので。活動範囲が狭いというような，その上に「高齢者は活動の幅が限定されている」という表現がありますので，活動範囲が比較的狭いというような表現でどうかなと思います。
（齋藤議長）
全く動けない人もいるかも分かりませんが，その方がいいかもしれません。
（中村委員）
少し戻ることになりますが，アクティブシニアの可能性を引き出すことについて，これだけ紙面を割いて書いているのであれば，若い人たちがボランティアをやりたいという気持ちがありながら，実際，その場が十分提供されていない現状というのも，一つ大きいと思います。年配の方たちではなく，若い人の活力を生かしていくこともすごく大事になってくる。世代に特化した情報提供のあり方だけではなく，何かプラスアルファ必要なのではないかという気がします。３ページのところです。４ページからの（３）でアクティブシニアについて，これだけ書いているのなら，若い人のことも，もう少し書いておいた方がいいのではないかという気がします。
（齋藤議長）
意識調査では，若い方のボランティア意識は高いですよね。

（中村委員）
ただ，場がないのではないかなと思います。
（伊井委員）
中村委員が言われるように，実際のところ，最初は来るのです。何かボランティアをやりましょうといったときに，講座でも何でも最初は来る。何かやっているうちに，だんだん減っていってしまう。それをどうしたらつなぎ止められるかが分からない。新しい人を募集するにしても，アクティブシニアだけがボランティアに来るかというと，そうではない。いろいろな人が来るわけですから，そういう人たちに情報を出して，どうしたらずっと来てもらえるかということを考える必要があります。要するに，ボランティアに出なくてもいいから，講座にだけでも出てくださいと，そこから始めないと人が集まらない。ボランティアの意識を徹底的に学校教育みたいにやれる何かがあればいいのですが。ボランティアに関しては，継続性がないことと，新しい人がなかなか集まらない，この二つが課題のような感じがします。
（中村委員）
私の大学でも，ボランティア活動など，学生は意識が高くてけっこう出ていたりします。専門学校や大学などをつなぐ，そこが一つの手がかりになると思いますし，なぜ来ないかが分からないなら意識調査をするなど，ボランティアニーズの調査にもつながると思います。若い人をどう出していくかということは，大事なことだと思います。
（伊井委員）
おっしゃるとおりで，学生には時間があります。元に戻って申し訳ないですが，１ページ目に「地域に常住する子どもと高齢者を結びつけることにより」とあり，中間がいないのか，中間の人たちは忙しい。暇な人はいないわけですが，土日はあっても，土日は休みだということで出てこない。その辺が難しい。会社などから強制的に出してもらい，ある程度年を取ってからはアクティブシニアになってくれるだろうという期待を持つ。そんなふうに私は考えています。
（齋藤議長）
若者について触れる，それをもう少し文面に表れるようにするということでしょうか。
（中村委員）
20 代や 30 代について。
（笠原委員）
ここのテーマは，アクティブシニアの可能性を引き出し，その力を生かすため，です。
（齋藤議長）
（２）の方に入ることになると思います。
（中村委員）
もう少し何か必要なのではないかと思いました。情報のあり方だけではないのではないか。
（齋藤議長）
記述には，「～20 歳代の人では約 80 パーセント～」とデータを出しているけれど，それが《具体的な施策》へ反映していないということですね。また，参加しても続かない，続かないということは，何か阻害要因があるということです。
（伊井委員）
対人関係で嫌だという人もいるだろうし，中身がおもしろくないから合わないとか，いろいろあるでしょうが，よく分かりません。
（齋藤議長）
そこをもう少し考える必要があるということですね。他にございますか。
（笠原委員）
質問です。４ページの施策「②現在積極的に活動しているアクティブシニアのための研修」とありますが，これは，この人たちのステップアップ研修なのか，それとも，現在積極的にいろいろなところでやっているアクティブシニアの横の連携のための研修が必要だということなのか。どちら

なのかと思いました。

（南委員）

最初の意味です。力を発揮していただいているアクティブシニアの皆さんの更なる，という意味です。

（齋藤議長）

他にどうでしょうか。

では，私から。４ページの３行目が，なぜ二重カギ括弧になっているのか。一重でいいのでは。

第３段落に「停止せざるを得ない」という表現があります。今はあまり「せざるを得ない」というのは使わないので，普通に「そのために活動をやむを得ず停止しなければならないケースもある」という表記がいいかと思いました。

５段落目にも，「場を設定することも考えられる」という語尾があります。「設定することが大切である」とか，そういう表現がいいのではないかと思いました。

＜具体的<u>な</u>施策＞ですが，３ページから「な」が入り出したので，１ページ，２ページと同じように「な」は要らないのではないか。《具体的施策》と揃える。

それから，①の小括弧の中に「専門的講座の設置」とありますが，「専門的講座の開設」くらいでいいのではないかと，そういうようなところに気付きました。

それでは，１ページから４ページについて，全体で何かお気付きのことはありますか。学習成果を生かすということでお気付きの点，いかがですか。

（伊井委員）

文言的に，この「１　学習成果を生かす循環型生涯学習の推進」と，私たちが書いたところ（第５章の４）とは，言おうとすることが競合しますから，最後に，事務局の方でうまく調整してもらわないと，同じことばかり繰り返してしまう。それだけお願いしたいと思います。

（齋藤議長）

重複部分が多いということですね。

（伊井委員）

多すぎます。相談して書いたわけではないけれども，一緒になったという感じがします。

（齋藤議長）

それでは，最後に通してやるとき，もっとここを削ったらとか，重点化をこうしたらということを整理するということでしょうか。

（伊井委員）

文言ではなく，内容について。

（生涯学習課長）

全部通した時点で訂正をしていくというお話ですが，今気づいたことを発言させてください。２ページの下から４行目で，「コーディネーター」を「学校・地域教育コーディネーター」として使っていますが，ここは新潟市の施策にある「地域教育コーディネーター」を固有名詞として使っているのであれば，「学校」はいらないと思います。また，２ページの図中で左右に向いた矢印の中央に「コーディネーター」が書かれていますが，その下にある生涯学習推進関係者が誰なのかよく分からない。いわゆる民間のコーディネーターを指すのか，そうではなくて行政関係者のことをいうのか，これを明確にした方がいいかと思います。

３ページの調査の扱い方で，１行目ですが，調査の扱い方として，パーセントではなくて，回答した人数をあえて使った意味があるのかどうか。人数の方が，より具体性があっていいという意味なのか。

４ページの一番最後の具体的な施策の②の一番下，（学習場面，参加場面，活躍場面，指導的場面等）とありますが，おぼろげながらには分かるのですが，具体的にどの場面にどういった研修をやればいいのかが，少し分かりにくいというのがありました。

（齋藤議長）

南委員，今の質問で答えられる範囲でいいですが，お願いします。

（南委員）

３ページの 728 人は，他のところでこのアンケート調査を引き合いに出しているところに１回も出ていなかったので，人数が分かった方がいいかと思って入れた覚えがあります。こだわっているわけではないです。

図に関しては，もう一回整理し直しますが，真ん中にコーディネーターというのが入る方がいいのではないかと思います。生涯学習推進関係者については，もう一回，五十嵐前委員に確認をとったうえで，直したいと思います。

４ページの最後，文言そのままなのですが，今いろいろ活動している方々の研修という意味でも，さらに学習した方がいいのではないか，活躍の場面ということでサジェッションが必要なのか，指導力という意味での研修が必要なのかというようなことを分けて書いたという意味です。幅広く必要に応じた研修をするという意味で理解していただければと思います。

（齋藤議長）

（　）の中はケーススタディ及びケースメソッド等くらいでいいのではないか，そういう研修をやってもらえばいい，そうすると，どの場面が問題になるかというふうに，代案としてはそういうのが考えられます。研修を事業化していくとき，どういうふうに打ち出せばいいかということでしょうか。時と場合によっては，行政の方が困るのではないか。

（真柄委員）

４ページの（３）のタイトルは，「アクティブシニアによる力を生かすための施策」というふうに言いきっているわけで，このアクティブシニアをどう生かしていきたいのかということを，基本方針のＩでもあげています。そういう人たちを生かすための施策を検討し，実施することが必要だと述べている。ここは施策になるのですが，そのアクティブシニアをどう生かしていきたいのかというのが，ちょっと述べられている。これは生涯学習の主軸になるということが，期待されていると書いてあるが，どのように生かしていくかを述べてあると良い。

（齋藤議長）

期待はよく伝わってくるけれども，ということですね。

（真柄委員）

ずっと期待ばかりではなくて，私たちはこんなふうなことで生かしたいのだ，ということにもう少し触れてあるといいのではないかと思います。

（南委員）

あるべき姿をイメージはしているわけです。

（真柄委員）

そうでないと，施策とならないのかなという感じもしたので。

（齋藤議長）

（基本方針で）私も少しは書いていると思いますが，企業などで働いている人たち，それから今やっている仕事を生かしてシニアになったとき，どういうふうにそれを社会に生かすかのかということについて，少しは出していたと思います。施策となったとき，そういう人たちの社会参加を進めていくときに，子どもたちには，ガイドブックなどいろいろ作りますが，教育委員会では大人向けはあまり作らない。その職業の人がいいかと思って頼んだけれど，キャリアがあまりしっかりしすぎて融通が利かず，失敗だったとかあちこちで聞くことがあります。キャリアを積んでいるからすぐ生かせるかというと，そうでもない。会社や組織に守られていたときは出来ても，そういう行動に一歩踏み込むと上手くないなど。

（真柄委員）

基本方針のところでは，（アクティブシニアを）ボランティア活動に生かしたいという話をした記憶があります。そうすると，ボランティアの活動とも関連するのですが，そういう方々が地域や人づくりに関したボランティア活動として活躍してくれることを期待するとか，そういうような何か

しらのことがあると，施策にも具体性が出ていいという気がしました。

（齋藤議長）

私は，ちょっと取り違えました。私は本文にハンドブックとかが出てくるものだから，施策としてハンドブックの作成や，そういうことを書いた方がいいのかと思っていたのです。真柄委員が言われたように，趣旨や生かし方，どう生かすか，そこを突っ込むのは分かりますが，一人前の大人だから，あまり深入りしない方がいいかとも思いました。

（南委員）

イメージとしては，議長が言われたようなイメージで書いたのです。

（齋藤議長）

例えば，アクティブシニア向けのハンドブックの作成くらいを施策に入れられないでしょうか。

（内田委員）

全体にかかわることだと思いますが，（１）から（３）の三つのセクションがあり，それぞれ最終的に具体的な施策をあげて次に進んでいます。基本計画というものの性格なのですが，どこまで踏み込んだことを書くべきなのか，あるいは書いてよいのかということで，原稿を拝見すると，水準がまちまちなのではないかという気がします。これについては，先に進む前に最低限の合意をしておかないと，作業しにくいような気がします。例えば，第５章の内容でも，（１）②の具体的施策は３つ書いてあります。一つ目は，「コーディネーター養成の充実と様々な場への配置，活用」で，二つ目は，「リーダー養成の充実と継続的実施」とあります。これは具体的施策というには，わりと一般的な施策の方向性みたいなものがあげられていると読めます。今，話題に出ていた（３）「②現在積極的に活動しているアクティブシニアのための研修」の実施みたいなことになると，先ほどに比べるとかなり具体的です。ここに書き込んだ場合は，それをコミットメントしたことになって，具体的に実施しなければいけないというような縛りがかかる。さっきのコーディネーターの養成というのは，ここで合意できれば，それは具体的にどうするかというのは，行政の方々に任せるという形でお預けできると思うのですが，かなり個別的なこと，こういう人々に対するこういう講習をやっていく，しかも，こういう内容でやっていくということまで書き込むと，行政の方の今後の仕事内容を拘束するような効果を持つようにも思います。それは基本計画の中で，どこまで我々としては書き込んでよいものかということを確認したいと思います。

（齋藤議長）

実施計画ではないけれども，具体的施策の書き方について。

（生涯学習課長）

今回の基本計画につきましては，計画年次を５年間と定めており，毎年のローリングによる実施計画は作らない予定です。したがって，まずは第一には，施策の方針は示していただきたいのですが，この５年間で特徴的な事業，何を目玉にもっていくかというようなことは，ここで取り上げていただければと思います。ここでいう具体的な施策は，５年間を見通した方針と具体的な部分の両方が出てくると考えております。

ただ，委員の皆様方からいただいたご意見すべてが，実現できるかどうかについては，また，計画をまとめていただいた後で，お願いすることになろうかと思います。

（内田委員）

今の解釈は難しい，判断は。ある程度方針的なことは望まれているけれども，多少は具体的なところまで踏み込んでと言われると，具体的に考える方としては，程度が分からないです。

（生涯学習課長）

方向性と具体的施策という意味です。

（齋藤議長）

実施計画を５年間作る予定がないので，ある程度書いていい，だけど，財務との折衝もあるので，実現できるかどうか留保しなければいけないところもあります，そういう説明ということなのでは。

（内田委員）

それは分かるのですが，ここでオーソライズしたあとに，これはちょっと削ってくださいということになると，すごく不透明になってしまう。最終校をフィックスしたことにするときに不透明になるので，このあたりまでの水準で書くことが求められているというのが分かると，作業がしやすいと思うのですが。基本計画なので，自分の担当箇所では，具体的なところに踏み込むことは，しなくていいのかなという判断をしたのです。方向だけ提示するということが求められていることで。具体的と言われると，具体的という言葉の意味内容も受け取り方がいろいろですので，あまり具体的施策みたいな言葉を不用意に使わない方がいいのかなと。作業をやっていく者の立場からすると，こうかなと思って申し上げています。だから，むしろ方向性だけ，ある程度明確に示してくださいという，あるいは方向性をわりと具体的にイメージできるように示してくださいという要求だったら，まだ対応しやすいと思います。施策もある程度具体的にと言われると，判断が難しい。

（中村委員）

課長のおっしゃることも分かる気がするのですが，やはり抽象的なものだけだとイメージが湧かない。既に新潟市は途中経過の事業がたくさんあり，その延長線上でやるようなこと，あらかじめ予想されるものもあると思います。そういうことに関しては，具体的に書き込んでいっていいのではないかという気がします。これはどうしても外せない，予算云々関係なく，これからの時代を考えたら，重要課題だというものについては書き込んでいっていいと思います。ただ，これはあやふやだなというものについては，踏み込んで書けない部分も確かにあると思うので，そこら辺はケースバイケースになると思いますが，もし書けるところであれば，書いていければ一番いいのかなという気がします。ただ，無理はしない方がいいとは思いますが。

（齋藤議長）

３，４回前の会議でも問題になったような記憶ですが，一応，方向付けと施策を書くけれども，事業名は書かないという合意で進んできたと思います。確かに内田委員のところは，具体的施策と明記していない。それはまた通して見るときに，付け足すなりすることで。南委員の具体的施策，一生懸命書かれてきたのに，みんな削除になるか分かりませんが，まず，一応これでいって，５章全体のところで見直す。今までの執筆依頼として，一応方向付けと施策として，実施計画の事業名のまでいらないという形でしたので。具体的施策については，具体的に書けるのは書く。

（内田委員）

ケースバイケースでしょう，ということですね。

（齋藤議長）

それでいいですか。

（南委員）

確認です。（２）に，特別なキャリアを持っている人の活用や，学生や若い世代の方の活用という文を少し付け加えて表現するということで，そこはいいのでしょうか。

（齋藤議長）

そして，図のところを整理する。

（南委員）

図は五十嵐前委員に確認をするということと，それから具体的施策は，例えばさっき言われた，アクティブシニアに向けてハンドブックの作成くらいまでは書くということでよろしいでしょうか。分かりました。

（齋藤議長）

よろしくお願いします。

それでは，第５章の２に入ります。５ページです。笠原委員，お願いします。

（笠原委員）

読み上げる前に，少し手直しをお願いします。５ページの真ん中で，意識調査の数字を拾ったところの「芸術，工芸に関すること」について，ここは「芸術・工芸」に直してください。その５行下，「文化，芸術」，これも「文化・芸術」と直ります。

６ページの上から７行目の後半です。「社会的要請の強い分野に参加を促したり」になります。その後，「生涯学習に無関心な層に対しても」の「も」だけをカットです。「啓発活動を行っていくことも重要である」に変わります。

第５章の２　―　音　読　―

（齋藤議長）

それでは，５ページについて，お気付きの点がございましたらお願いします。

では，私から。５ページの下から５行目，６行目。「最近では直接」の後に，例えば「に」を入れたらいいのではないか，「直接に」にする。「実生活に」がまた続きますか。

（笠原委員）

「，」でもいいですね。「に」が続くので。「直接，実生活に結びつくもの」。

（齋藤議長）

その後ろのダッシュ（―）の意味が分からない。

（笠原委員）

これはダッシュです。

（齋藤議長）

「，」を打ってもいいですね。そして「つまり，」の後ろの「，」を取るとか，「結びつくもの，つまり職業的知識や～」と。それから，その下に「取得」があって「習得」があるのですが，これは「習う」ではなくて「修める」かと思います。「取得」はそれでいいと思います。

（笠原委員）

資格ですから，修める方ですね。ありがとうございました。

（内田委員）

資格取得の「取得」をとった方がいいのではないでしょうか。「資格取得等の修得」，資格を取得することが修得になるので，習得の字を変えても，取得を修得するになる。取得を生かすとすれば，「資格等の取得・修得」。「修得」の字はさっき直したとおりでいいと思います。

（笠原委員）

そうですね，取得はいらないですね。

（内田委員）

資格の修得とは言わないので，「資格等の取得・修得を含んだもの」とすればいいかと思います。

（齋藤議長）

よろしいですか。

（笠原委員）

はい。

（真柄委員）

ここのタイトルは，「（１）ライフステージにあった学習課題～」です。大きなタイトルは現代的課題となっていて，（１）にくるまでの間に現代的課題と，その下の３行目に要求課題的な表現と書かれています。ここでいう（１）の学習課題というのは，学習要求課題の整理のことなのか，現代的課題を受けたものなのかが文章からは読み取れなかった。どちらかと言うと，要求課題にどういうことをしていくかというような意味合いだと思うのですが，その辺をちょっと教えていただきたいと思います。

（笠原委員）

私もそれについては揺れながら書きました。

（齋藤議長）

重要であると，重要にしたら（１）と（２）を主として取り上げるとか，そういう書き方にしていただいたらいいですよね。（１）（２）と出てきますよね。

（笠原委員）

これは，与えられたテーマでした。（１）（２）はこういうテーマでということだったのです。

（内田委員）

真柄委員がおっしゃったように，確かに中身に書かれていることは，課題というよりは，学習ニーズみたいなことです。調査をしたら，こういうことをしたいという回答が，こういう文書で出てきたということなので，学習課題というには，素手では入れない。つまり，あるべきものはこうだというフレームワークというか，理論を立ててねらっていかなければいけない。確かにもともとあった学習課題という言葉をここに要求するのは，そういうと，無理があったのかもしれません。学習課題をここで打ち出したら，えらいことになってしまうので，やはり学習ニーズとか需要はこういうのがありますという感じで述べられていると，内容的にはこういうふうに書くしかないのではないかと思います。手持ちの材料では。それから，タイトルの方は課題を取って，ニーズという言葉でいいのであれば，内容とは合うと思います。課題のことをここで論じ出すと，大変かなと思います。

（齋藤議長）

内田委員，真柄委員の意見を入れると，「ライフステージにあった要求課題の整理と効果的な実施」となりますでしょうか。

（笠原委員）

ニーズでしょうか，要求課題でしょうか。課題という言葉を避けるのか。

（齋藤議長）

学習という言葉を取ればいい，学習のかわりに要求を入れる。

（笠原委員）

要求にしますか，要求課題。

（齋藤議長）

社会教育で要求課題というのは普通にキーワードです。真柄委員，（２）はいいですか。

（真柄委員）

（２）は逆に，現代的な課題を抑えておられますよね。青少年とか出ている。青少年のことで一つ言うと，人間関係の希薄さが課題として取り上げられて，それを解決するための方向性が，コミュニケーション能力というふうに出ていると読み取ってみました。

（中村委員）

６ページについて。「対象者ごとに，広報の出し方，実施機関，時間，場所等の制約事項の見直しが必要になってくる。」と書いてありますが，そこら辺の具体的なことがイメージできなかったので，説明していただければと思います。

（笠原委員）

実施機関や時間という制約事項は，例えば，仕事をしているような人を対象にしている場合は，駅に近いとか夜に講座を開催するとか，そういうことです。広報の出し方も，ペーパーがいいのか，ホームページがいいのか，同じ情報を出すにしても出し方について，あるいは場所，出前のように場所を移したもの，あくまでも公民館ではなくて，駅前のどこかを借りるとか，いろいろあると思うのです。もっと時間や場所の概念を外して，どこでどういうニーズがあるかということを，やってもらいたいということを書きたかったのです。それで，時間，場所なのですが，実施機関も，後押ししてもいいと思うのです。社会教育関係のところが無理に前面に出なくても，他のところが実施してもいいと思うのです。そういうことを対象者によって，多様な対応が必要なのではないかということを書きたいのですが，伝わりませんか。

（中村委員）

文章がつながっている。対象者を，広く言っているのではなくて，生涯学習に無関心な層と限定しているのかと思ったのです。限定しているのか，広く全体の対象者をいっているのかというところが分かりづらかった。

（笠原委員）

両方いっているのです。

（中村委員）
そうだとすると，つなげると，またちょっと分かりづらくなります。
（笠原委員）
無関心な層に対しても，というのがあるのですが，私としては全部含んでいます。
（齋藤議長）
無関心な層は上の行にありますね。
（笠原委員）
上の行にある，これも受けているつもりです。
（齋藤議長）
先ほどの南委員のように，広報の出し方，実施機関，時間，場所等の制約事項の見直しを行うということにして，具体的に施策として取り出すのはどうでしょうか。それはきちっとやるよと言うことで。
（笠原委員）
別書きした方がいいということですか，それとも，この文章の中ででしょうか。
（齋藤議長）
具体的施策として取り出す。それだけでも，結構いい作業になると思います。市から出ているのは特に募集したけれど，人が集まらないものに限定して検討してみるとか，やっている暇がないから集まらなかったで終わって，もう次にいっていますから。もし，可能なら，南委員のところのように，具体的施策ということにして取り出したらどうですかというのが意見です。
（笠原委員）
先ほど，内田委員が言われたように，私はここでそういうのを具体的に出す必要があるのかなと思って，全部クエスチョンの中に入れたのですが。分かりました。考えてみます。
（齋藤議長）
考えて，検討してみてください。
（内田委員）
もし，このまま書くとすれば，全事項見直しというところが，結構いろいろなことを込めて書かれているので，二つに分けて，現状だと，これこれこれが制約されていて，不自由な面があるので，その辺もっと柔軟にできるように改善を図っていくと書かれれば，それでいいのかなと思いました。書かれている内容については異論がまったくないので，書き方をもうちょっと開いた書き方をすれば，このままでも十分意味が分かってもらえる文章に，すぐにできると思います。すぐにというか，苦労しなくてもできるかなと。
（中村委員）
南委員のところで書かれたように，みんなで書き出すとなると，他の人も書き出すことになると思うので，その形式についてはまた別に検討が必要では。
（齋藤議長）
それは検討してくださいと言うのだから，やりなさいという意味ではないです。
（中村委員）
これは全体に変わるところかなと思います。
（笠原委員）
この形で書いてくださいと，中で丁寧に，おっしゃるように書いてみます。ちょっと伝わっていないみたいですので。
（伊井委員）
６ページの上から６行目「社会教育施設の一層のコーディネーター的役割が望まれる。」というのは，具体的には何を指すのですか。
（齋藤議長）
ここのところは，つながりが文脈としてよく分からないというご質問かと思います。

（笠原委員）

藤澤委員からも，ここは他のところとだぶっているという指摘がきております。これは完全に切ってくれても構わないと。私はただ文章のつながりで，じゃあ，社会教育施設は何をすればいいのだというのがあるので，こうしたことはコーディネーターがする役割ですよと書いたのですが，なくてもいいです。いろいろな施設の連携をうたっていますよね，重複して繋がりが良くないということなのでしょうか。

（齋藤議長）

多分文章が重なっているということではなくて，読んでいて意味が浮かばないということをおっしゃっていると思います。

（笠原委員）

あそこども，ここども連携しろといっていますので，連携に関しては，社会教育施設がコーディネーター的役割を果たさなければならないのではないでしょうかということなのですが。

（伊井委員）

笠原委員の書いた文章の中には，コーディネーターという言葉は入っていない。ここだけなのです。

（笠原委員）

検討します。

（生涯学習課長）

６ページの３行目に「産・学・社」と書いてありますが，具体的には「産・学・官」ではないかと思うのです。学と社を並べると，学校と社会教育になってしまいがちなので，ここでいいたいのは企業と大学，高等機関でしょうか，そして，官ですから行政でしょうか，それの連携ということではないかと思います。

（笠原委員）

私の言いたいのはそっちです。産・学・官ですね。

（生涯学習課長）

その後，この産・学・官がうまく学び直しにつながるためには，社会教育の役割があるんじゃないのということを笠原委員がおっしゃりたかったのではないかと推測するのですが，いかがでしょうか。

（笠原委員）

学び直しを是非，ここに入れたかったのです。そこが伝わりませんでしょうか。ここも検討します。産・学・官を，再チャレンジとか学び直しというところで言いたい。どうもそういうふうに伝わっていないようですので，ここも検討します。

（齋藤議長）

２行目の「キャリア形成」を下から６行目と対応させて「キャリアアップ」にしていただくといかがでしょうか。普通どんどん出ているパンフレットの意味と，キャリア形成がちょっと違っているものですから。主婦で，子育てするというのもキャリア形成になっているということですよね。ボランティア活動するというのも，キャリア形成になっていると。

（内田委員）

ただ，一般的にはキャリアアップとキャリア形成というのは，含んでいる意味内容がだいぶ違うと思います。

（齋藤議長）

ここは就職問題とか起業のことを言っているので，再チャレンジで就職の方へいっているのではないかなと思ったので，キャリアアップの方ではないかなと，キャリア形成ではないと。

（内田委員）

就職のことだとすれば，形成の方が適切かと思います。キャリアアップというのは，今やっている仕事，例えば教員だったら，専修免許状を取得するとか，今やっている仕事の連続線上で，より

高い資格取得を目指すということの方がふさわしい言葉なので，今，職場のない人にキャリアアップというのは，普通の日本語の語感としても使わないです。

（齋藤議長）

別の仕事に就く，新しい，レベルアップした方に就くのも，キャリアアップ。

（内田委員）

そういうこともありますが，ただ，ここ（２行目）でイメージされている事柄というのは，そういうことに限定されないのではないでしょうか。キャリア形成というのは，キャリアアップも含む。キャリア形成も広い言葉なので，ここではキャリア形成と表現する。

（齋藤議長）

広い言葉であるがゆえに，等という言葉はあるのだけれど，ボランティア活動をやることや，子育て，病人の看病もみんなキャリア形成に入っているので，全部パンフレットがそう作られて出ているから。

（笠原委員）

そうなのですか。

（内田委員）

それは初めて聞きましたけれども，そういうふうに使われているとは。

（齋藤議長）

そういうふうに出ているのです。

（笠原委員）

私がここで使っているのは，キャリアを得るという意味で使ったので，キャリア形成としたのですが。

（齋藤議長）

職を得るみたいに理解されているなと思ったものですから。キャリア教育に力を注ぎだしたもので，ニート問題が出てから，たくさんパンフレットが出回っているのです。

（内田委員）

最近は，職業指導や，企業とかでは，キャリアデザインという言葉を使う。それも結構広い意味です。

（齋藤議長）

法政大学だったかの学部でありますね。

（内田委員）

入職前からの考え方も含みますし，キャリアアップと言われてきたことも含みます。そういう言葉もあります。

（齋藤議長）

キャリアデザインにしますか，もっと説明が必要になってくる感じですね。

（内田委員）

キャリア形成がそんなに広い意味で，ボランティアなどもキャリアというふうに使われているとすると，大変ですね。

（齋藤議長）

そういうことでもなさそうだなと思ったもので，それで質問したのです。

（笠原委員）

その点は勉強不足でした。

（齋藤議長）

では，そこはまた検討していただくことに。もしであれば，市役所や県から出ているパンフレットや，そういうものを見ていただいて。

（内田委員）

細かいことですが，（２）の最初の文章に，「子どもを」というのが２回出てくるので，提案とし

ては最初の「子ども」をとった方がいいのかと思います。「地域の一員として地域ぐるみで子どもを育てていく意識の定着～」というふうにすればいいかと思います。

下から４行目の「仕事と生活の調和」というのは，最近よく言われるのは，ワーク・ライフ・バランスといって，ワークというのも入れた方がいいかと思います。

（笠原委員）

そうですね，私もそれを落としました。ワークライフ・バランスですね。

（齋藤議長）

７ページに進みます。

（中村委員）

（６行目）「青少年の育成については，人間関係の希薄さが問題になっている。」とあります。この理由はそう単純ではないと思いますので，逆に書かない方がいいのではと思いました。例えば，地域力の低下であるとか，核家族化とか。一概に余暇を携帯電話やパソコン操作に費やしているということとイコールにはならないと思うので，逆に書かなくてもいいのかなという気がします。書くのであれば，もう少し幅広く書く必要があるという気がします。

（笠原委員）

私はこのように捉えたものですから，そう率直に書いたのですが。

（中村委員）

それだけではなくて，地域教育力の低下であるとか，核家族化であるとか，自然体験とか，人とのかかわりの体験が極力希薄になっているとか，いろいろあげられていると思うので。また，余暇のほとんどを必ずしもそれ（携帯電話やパソコンの操作）に費やしているかというとそうではなくて，例えば塾や，人によっても，子どもによっても様々という感じかと思います。

（笠原委員）

「余暇のほとんどを～」というのは，人間関係の希薄さの説明です。人間関係が希薄になっているというのは，こういうことが理由ですよということで，全部がそういうふうに希薄になっているということではないのですが。

（中村委員）

その人間関係の希薄さの背景は，これだけではなく，そんなに単純ではないということです。ここが主な理由とあげられるわけではないと。

（齋藤議長）

人間関係の希薄さが問題になっているという指摘は，いいのでしょう。

（中村委員）

それはいいです。だから，逆に理由は書かないか，書くなら，もう少し幅広く入れるかのどちらかだと思います。問題になっていることは間違いないと思います。

２点目として，「自然体験活動の機会があったりすることが，青少年のコミュニケーション能力の向上に役立つ。」と書いてあるのですが，そういうことに参加し，いろいろな人とかかわることによって，ということが必要かと思いました。それによってコミュニケーション能力につながるのであって，自然体験活動する＝コミュニケーションにつながらないで，ワンクッション，一つ言葉が必要かなということです。

（笠原委員）

分かりました。

（伊井委員）

下から６行目，「公民館，図書館をはじめとする社会教育施設」云々とあります。これは施設，その次が「学びを支えるボランティアやＮＰＯ」の人の問題，そして，「コミュニティーセンター，自治会館，～」と順序が逆になっている，アンバランスではないかと思います。いかがですか。

（笠原委員）

順序の問題でしょうか。地域の施設を書いたのです。場所を書いたのです。コミュニティーセン

ターや自治会館。

（伊井委員）

最初に施設があって，その次に人があって，それからまた施設。

（齋藤議長）

まとまりを整理してということですね。

（笠原委員）

そうすると，どういうような並び替えがいいということでしょうか。ボランティアとＮＰＯは人を指しているのですが，そのあとで場所を記載する。

（伊井委員）

そういう並びではどうかなと思ったのです。どうでしょうか。内容はみんなこのとおりで，分からないわけではありませんが，全体的にどうなのかなと思いまして。

（笠原委員）

違和感がありますか。

（齋藤議長）

施設をまとめて公共施設，社会教育施設。もし，社会教育施設を強調したいなら，人を書いて，公共施設を書いて，とりわけ社会教育施設は連携のイニシアチブなり，積極的に働きかけていったらいい，そういう書き方がいいかも分かりません。

（新藤委員）

下から８行目，「また，何らかの事情で高校に入学できなかったり，～」という表現，もう少し剥落するというか，関係する人たちには少し刺激的な表現みたいに感じますが。

（笠原委員）

そうですか。結構深刻なことをはぐらかして書いたつもりなのですが。

（齋藤議長）

代案はありますか。

（新藤委員）

「希望する進路に進めなかった」とか。

（齋藤議長）

「何らかの事情」が引っかかるということですね。それで，これは教育委員会から出るので，通称の「高校」ではなくて，「高等学校」にしてもらいたいと思います。

（内田委員）

先ほどの伊井委員の質問に提案するとすれば，ここは青少年の話をしているところですよね，家庭教育と青少年の育成について。なので，「公民館，図書館をはじめとする」というパラグラフも，青少年の育成にかかわってということですよね。ただ，ちょっと分かりにくいので，できたら，ここの健全な家庭教育や青少年の育成のためには公民館，何々が連携し合うみたいな形で始めた方がいいかと思いました。その後の「社会全体のモラルアップが図られなければならない。」というのは，むしろ，次の２行につながっているように読んだのですが。最初に読み上げていただいたときに，ここで段落を切る意図が分からなかったのです。つまり，青少年をいい形で育成していく環境を整えるためには，社会全体のモラルアップが図られなければならないという主張だというふうに伺ったのです。だとしたら，これは最終的なまとめの言葉として位置づけられた方がいい。最後の２行というのは，例えば，育児放棄の問題などは，青少年育成の問題とはちょっと外れるので，女性，外国人，障がい者に対する差別，蔑視の問題とか，そういう問題は，もうちょっと広い社会全体のモラルアップの問題の具体例かなと思いましたので。

（笠原委員）

私は，人権としてとらえたのであげたのです。

（内田委員）

人権問題でいい，人権問題も含みますが，これは青少年に直接働きかけるというよりは，青少年

が育つ環境をどういうふうにするかという形で，むしろ大人に責任がある部分ということで，そういうことを最後に一つの枠の中で，テーマとしては社会全体のモラルアップを図ることも必要と言うことを入れ込む形で，この節を終わるという校正にした方がいいと思いました。

そして，提案としては，社会全体のモラルアップという部分は，今の段落から外して，最終段落の中に入れ込んだ方がいいと思います。

（笠原委員）

ここは検討ですね。

（齋藤議長）

では，そこはまた文章を検討し，推敲をお願いしたいと思います。５ページから７ページをとおして何かお気付きの点，ございますか。

（真柄委員）

一番最初の書き出しの部分（５ページ）で，「社会情勢の変化に対応した学びを「現代的課題」としてとらえ」となりますと，学び＝現代的課題という文章に受け取れないでしょうか。現代的課題をそのようにとらえることがあるのか，ないのかというのがちょっと気になったところです。

（齋藤議長）

学びをとおしてというのは無理ですね。「社会情勢の変化に対応した現代的な課題を学ぶ」とか，そういう日本語になりますね。

（笠原委員）

「学び」は変ですね。それは変ですね。

（真柄委員）

もう１点，７ページで，先ほど中村委員からもお話があった「人間関係の希薄さが問題になっている」というのは青少年のこととして分かったのですが，（２）では，家庭教育の課題が見えなかったのです。いろいろなことをやることは書かれているのですが，地域の一員として地域ぐるみで子どもを育てていく意識の定着というのは，地域の課題みたいな感じがして，家庭教育の課題とは何なのかについては，子育ての支援がつくられていないとか，全体から見るとどのようなことなのでしょうか。家庭教育の課題，大きなタイトルは「現代的課題」で，（２）では，特に家庭教育と青少年のそれぞれの課題をあげながら，解決するための施策を作っていこうという章です。そうすると，青少年は，人間関係の希薄さが一番の課題として施策を述べられているのですが，家庭教育の課題は何なのかなということが，ちょっと見えなかったということです。

（齋藤議長）

真柄委員の考える家庭教育の課題を言っていただくといいのですが。

（真柄委員）

この文章から見ると，どうも子育て支援の体制がとれていないとか，一人で育てているとか，核家族だとか，地域で支える仕組みになっていないとか，そういうような流れです。そういうことを言いきるというか，何か一言あってもいいのかなという感じがしました。

（齋藤議長）

家庭教育の課題として，これだというのをはっきり書いて，それからこういう支援をしていく，いろいろやっていくのは書いてあるけれども，ということですね。

では，休憩にしますが，次の真島委員は欠席ですので，ここはどなたがやるのでしょう。組んでいる方はどなたでしょうか。

（笠原委員）

私がセットですが，真島さんがお休みなのも伺っていませんでしたので。

（齋藤議長）

では，そこは飛ばして，休憩後は10ページ，長谷川委員，真柄委員のところから始めます。

（休　憩）

（齋藤議長）
再開させていただきます。
第５章の３。長谷川委員と真柄委員の担当です。10 ページからお願いします。
（長谷川委員）
私のところは，ずっと初校のままを貫いています。前回，修正があったアンケートに関する名称は統一表現にというご意見をいただいていたので，読む中で修正を加えて読んでいこうと思います。
第５章の３　　－　音　読　－
（齋藤議長）
10 ページについて。お気付きの点がありましたらお願いします。長谷川委員からは，重なっているのであれば削除するという説明もあったようですが。
（長谷川委員）
重複している部分がかなりあるのかなと思います。例えば具体的な施策では，先ほどの現代的課題の中で，笠原委員から出ていたような情報提供のあり方や，活動場所や活動機会などの供給の仕方というのは，例えば開催場所であったり，出前講座であったりとか，ライフステージにあった情報発信の仕方などというようなニュアンスで書いておりますので，具体的な施策の部分で重複している部分があるかと考えています。
（齋藤議長）
では，それは次回までに修正されて出てきますか。
（長谷川委員）
どう修正しようかなというところで，ご意見をいただければと思います。
（齋藤議長）
（１）は，重複も多いので，市民意識の啓発にかかわってだけでいくということにしたいということでしょうか。学・社・民融合の市民意識の啓発というところだけ，はっきり出ていればいいだろうと思います。だから，具体的施策にある，２番目，３番目でいくということでしょうか。生涯学習とか，そういう一般的な情報提供については削除して。
（長谷川委員）
学・社・民の融合に特化すると，（具体的施策としてあげた）２番目の「学校という地域の核を利用した～」というのは残せると思うのですが，他の一般的な生涯学習の部分に通じるかどうか。
（齋藤議長）
そこだけ残すという形にすればいいのではないでしょうか。
（真柄委員）
特化するというのは，ちょっと変ですね。真ん中と一番下の方を生かしますと，まだ始まったばかりだということで，啓発が必要だとも。
（齋藤議長）
普及・定着段階に至っていないようだというのはやめて，いないとはっきりさせる。だから，それの啓発活動が必要と表記することも考えられます。
（内田委員）
調査結果の使い方で，セクションが細かく書かれている。例えば，同アンケートの（２）の中の①というようなこと，これは読者が意識調査の冊子も同時に持って参照するという前提なのですが，今回はそこまでは参照することを求められるものではないので，簡単にこういうテーマで聞いたらこういう回答結果だったというふうに述べればいいと思います。そのあと中段の「２，社会活動へのかかわり（１）～」も同じです。２社会活動へのかかわりとか，この「２」というのは，記述する必要はないと思いました。ゴシックで挿入されている（○ページ，△△図表参照）というのは，たしか第１章のところでも同じ図表が出てきていて，それの参照ですよね。
前半と後半で，データの表記方法がずれていると思いました。具体的には，小数点以下の数字を

どう扱うかですが，調査報告書の方では最終的には小数点以下は全部丸めました。算定調査で出していて，新聞などの世論調査の使われ方にもありますが，コンマ以下の数字は意味がない。だから，ここは丸めた方で統一するのがいいのではないかと思います。

（齋藤議長）

コンマ以下は丸める。全体のところは，そう直さなくてもいいというご意見ですね。

（伊井委員）

10 ページの真ん中辺にアンケート結果が出てきますが，その中で「「時間的余裕がない」といった案外個人的・あいまいな理由が多いことについで，「活動のための情報が不足していた」」とあります。本当に時間がないのか，もし，時間がないとして，その人たちをどういうふうにしてやるか，その対策として（具体的施策として）ゴッシックで書いてあると思うのですが，何か具体的なものを書くのがいいのかどうか，その一つに情報提供のあり方を考えるとか，もう一つは，個人的要因，育児や介護ができやすくするとかは分かりますが，どうも時間がないことの解決になるのかなと思いました。情報提供がまずいから来ないのか，ちょっとその辺がよく分からない。

（齋藤議長）

いらないということなのか，もし，書くのなら，もっと具体化してということでしょうか。

（伊井委員）

具体的に書いた方がいいのか，その辺で迷っています。

（齋藤議長）

どうも聞いていると，削除のようですね。時間に余裕がないというなら，理由にして述べない方がいいということですか。アンケートに答える側からすると，きっと○をつけてしまうでしょう。

（内田委員）

伊井委員の読み方はいいと思いますが，長谷川委員が書かれたのは，時間的な余裕がないから，来ることは来る。けれども，ここから取り出したいのは次であって，情報不足というストーリー展開になっていて，それが施策につながっていると思うので，残してもいいと思います。よくあげられがちな時間的な余裕の無さに次いでという感じでさらっと流し，重要なのはここだというふうにアクセントをつけたらいいかと思いました。

（長谷川委員）

意識の啓発自体が，学・社・民融合に関する市民意識の啓発という意味であるならば，下から 12 行目，「そして，」以降の文章だけが残るかなというイメージでしょうか。もし残していただけるのであれば，別のところかなと。

（内田委員）

それは，どこかで扱うのでしたっけ。

（長谷川委員）

どちらかと言えば，現代的課題の方で扱っています。

（齋藤議長）

では，そこは削除の方向で検討していただくということでお願いします。

11 ページ「（２）社会に貢献する市民の育成」についてお願いします。

（南委員）

最初に，「人づくり」か「人間づくり」かという点を統一した方がいい。全体のところ，大枠で「人づくり」と出ているので，ここは全部「人づくり」の方がいいと思ったのですが。

（齋藤議長）

10 ページの出だしが「人づくり」になっているので，というご意見です。

（内田委員）

書き方のことですが，（２）の二つ目のパラグラフの中で，「身につけた知識や技能の活用先は」というところで，それぞれ「生かす」「生かす」と書いてあるのですが，「活用先は」と述べているので，生かすというのが含まれているので，「個人のキャリア開発が多く」に。「ボランティア活動

の発展に生かす」,「地域社会の発展に生かす」層がまだまだ少ないといえる，ここもそうですね。次のところはいいと思います。

（齋藤議長）

11 ページ中の（２）の２行目で「つまりは」の「は」はいらないのではないですか。

あと，アンケートとか，それは全部，市民意識調査は「　」に直す，そういうことですね。

先に進みます。12 ページ，お願いします。

（笠原委員）

小さいところですが，12 ページ（３）の「市民意識調査」から拾う表記は，統一した方がいいと思います。「文化芸術」というのは「文化・芸術」に表記を統一した方がいいと思います。

（内田委員）

細かいことですが，上のゴシック体のところで，下から２行目「還元方法機会の提供」は「還元する機会」でもいいのかと思いました。次も，「地域活動に参画する機会」に。

（齋藤議長）

ここも漢字が続いていますね。

（内田委員）

拡充という言葉の中には「更なる」という語彙が入っているから，「更なる」はカットしてもいいかもしれません。「地域活動に参加する機会を拡充する」でいいと思います。

（伊井委員）

12 ページ最初の２行目に「いかに人と人とをつなぐかが鍵」とあります。どうしたらつなげられるのかと考えました。出会いの場とか，いろいろあるでしょうが，これは市民の意識改革というのが必要だろうと思います。地域づくりに参画している意識など，何かここの中に，意識改革というのが必要ではないかなと。ですから，この「意識を育む」はいいなと思っていたのですが，「以上のことから」の中に，育成や拡充はありますが，意識改革にも触れてはどうか。具体的なものは出せないのですが。

（齋藤議長）

長谷川委員は，意識を育むために，次の三つの施策がいるのではないかという書き方だと思います。三つの施策のところに「意識改革」を書いてという意味ですか。

（伊井委員）

そういう意味ではありません。もう少し具体的なものを書いてもいいのかなと。抽象的になってしまうような感じがしました。先ほどのように，方向性があれば，具体的施策はいらないとなれば，こういう「意識改革」「意識を育む」ということを強調した方がいいと思います。今までの文章を見ても，意識というのは入っていなかった。ここへきて，初めて意識というのが出たと思うので。

（齋藤議長）

長谷川委員のところは，結構たくさん出てきている。

（伊井委員）

そう思います。

（齋藤議長）

では，13 ページにいきます。13 ページ，施策の三つ目は，学校教育法の新しいものという意味でしょうか，真柄委員。

（真柄委員）

「地域教育コーディネーター」のことです。

（齋藤議長）

今までの，今やっている「地域教育コーディネーター」ということですね。

（中村委員）

地域のお年寄りを学校に招くというのは，それこそ学校はやっていると思いますが，企業の人たちを学校の現場に生かしていくというのが入ってくるといいと思います。例えば，職場体験を中学

校でやっていますが，協力してくれる企業の開拓であるとか，企業の人材を学校の中でどう生かしていくかという視点が必要になると思うので，そこら辺の記述があればいいと思います。

（齋藤議長）

活躍する人材の発掘の中に入れたらと，そういうことですね，意識調査のものだけでなく。真柄委員，入れられるでしょうか。

（真柄委員）

分かりました。

（齋藤議長）

それこそ，先ほどの「キャリア教育」で事業所とか，企業とかということですね。

（中村委員）

職場体験とか，そこら辺のところともかかわってきます。

（笠原委員）

13 ページ下から９行目「教育ビジョンで学社民の融合」も，教育ビジョンとのかかわりで中点を入れた（「学・社・民」）方がいいのではないでしょうか。（４）ではさらに２行下にも，出てきます。

（齋藤議長）

正しく表記するということです。

（新藤委員）

13 ページの下から４行目，「道徳で「かさぼこ」の継承者を～」と，いきなり「かさぼこ」が出てきて，その次の行で，「曽根の「かさぼこ」も例外ではない。」と出てきます。はじめの「かさぼこ」は，素直に地域の伝統芸能とか何かに表現を変えた方がいいのでは。そのあとで「曽根の「かさぼこ」も～」と出てくるので，その方が分かりやすくていい。いきなり「かさぼこ」と出てくると，これは伝統芸能なのか，何なのかがちょっと分からない。

（齋藤議長）

地域の伝統芸能「かさぼこ」の継承者を招いて，道徳の授業を行ってもらう，行われているとか，そういう形にすればいいですね。

（笠原委員）

この段落の２行目で，「曽根の「かさぼこ」も～」と出てくるのですが，突然，地名が出てきて違和感を感じます。西蒲区とかにしていただかないと。曽根の「かさぼこ」ということで知っている人は知っているかもしれないでしょうが。

（齋藤議長）

「西蒲区曽根」ということでしょうか。

（真柄委員）

できるだけ地名的なものをという意味でしょうか。

（笠原委員）

私は「西蒲区」でいいと思いました。

（真柄委員）

具体性を取って，客観的にした方がよろしいかと思います。

（齋藤議長）

客観的にしてしまうと，今回の趣旨から逸脱してくる。区の良さを生かして発展させるというのが一つありますから，西蒲区曽根でいいでしょう。

（新藤委員）

私は知っているので違和感はさほど・・・。けれども，いきなり「かさぼこ」と出られると・・・。

（齋藤議長）

分かりました。「かさぼこ」は消さない。それが名称なので，もう少し一般化してということで。

（中村委員）

地域の中で，どういうふうに連携していくかというネットワークのことが書かれていますが，地

域教育コーディネーターがどんどん配置され，広がってきていることから，地域間のネットワークという部分も大事になってくると思います。企業は地域だけでなく市全体で活用できる人材という視点がある。加えて，それぞれの地域ごとの取組みをいかに結んでいくかという視点も，どこか最後の方にあるといいと思います。地区の中でどれだけするかということの言及になっていますが，プラスアルファとして各地域間のネットワークという部分もあるといい。

（齋藤議長）

具体的に地域教育コーディネーターの研修会もやっているので，それが分かるようにした方がいいですね。地域間ネットワークをどういうふうにやっているのかということについて。（４）の見出しが，「人と人との連携づくり，ネットワークづくり」になっていますから。施策としては，地域教育コーディネーターや社会教育主事，公民館主事との関係職員の資質の向上のところでやるのだと思いますが，本文での説明もあった方がいいのではないかというご意見です。

14 ページ４行目の語尾について。「期待できる。」というのは一般的でしょうか。私は「期待することができる。」とか，そういうふうに書くのですが。そういうのがいっぱい出てくる。「期待できる」という表記について。今は，だんだん短くなってきているような感じがしますが。

それから，「できる」というのは，ひらがなのところと漢字のところがある。役所では，ほとんどひらがなですね。昔は漢字を使っていたけれども，今はひらがなになっています。

（真柄委員）

他の今までのところは非常に具体的です。先ほど齋藤議長が，地域名とか，具体的にするのだとは言いながら，今までやってきたのから比べると，入り込んだりしている部分が出てくる。直しているときに，どの程度までの具体でもっていったらいいのかというのが，今の段階ではちょっと分からないので教えてください。

（齋藤議長）

最初の内田委員のご指摘とも連動していると思います。地域の伝統・芸能で，西蒲区曽根の「かさぼこ」だけが例としてあがっている。そうすると，凧合戦も入れてとか，そういう問題に巻き込まれないように書くという技術が必要ですね。何でそこだけ書いてあるのか。また見直しますけれども。

（真柄委員）

分かりました。

（齋藤議長）

10 ページから 14 ページまででとおしていかがですか。ここは人づくり，地域づくり，だけど，学・社・民の融合による人づくり，地域づくりだから，これに限定して。教育ビジョンで打ち出しているので，特別に取り上げたということです。

（内田委員）

直前の話ともかかわってきますが，真柄委員の原稿の中で，今も話題になった，具体例が３か所くらい出ています。僕はこれはすごくいいと思ったのです。ただ，モードがいきなり切り替わる，他の部分とぱっと切り替わるという感じなので，「例をあげれば」とか，「これこれは一例で挙げています」と明示すればいいのではないかと思います。

全体的なこととともかかわるのですが，それぞれの方が書かれた原稿を拝見していると，スタイルがまちまちです。例えば，学校の現場を知っておられる方などが見ると思うのですが，そういう人が書き手になってもいるわけです。今回，そういうふうに作ったということを，どこか端書きか何かに明示して，むりやり整理しない方がいいのかなと思っています。最低限，そろえることがあってもいいと思いますが，結構まちまちな部分がそのまま残っても，そういうふうに今回は作ったのですよと，それをむしろ利点として残す。

（中村委員）

読む人が，利点としてとらえてくれればいいですが。

（生涯学習課長）

様式のことは今から結論を出さないで，そのへんは最後までいってからということでどうでしょうか。

（齋藤議長）

そういう意見が，内田委員からあったということです。では，今日は，ここまでですね。原稿の審議はそこまで。あと，連絡事項と報告事項があります。欲張ると，それをやって５時半に終われない。次回，内田委員のところまでいけばひととおり終わります。そこまではいくと思います。そして９月にとおしたものを出してみるという段取りです。原稿検討は，ここまでにします。

３．その他について。事務局から説明お願いします。

（生涯学習課長）

（１）　９月以降の会議開催日程について。資料２　説明。

日程調整。→９月は　**９月１日（火曜日）午後２時～**

（齋藤議長）

その他（２）（社）全国社会教育委員連合「平成 21 年度助成の公募」について。

（生涯学習課長）

先回会議でお話申し上げた件でございます。本日の会議までに公募についてご意見の提出がございませんでしたので，このたびは応募しないということでよろしいでしょうか。

（鈴木係長）

次回は，８月１０日（月）午後２時から。会場は同じです。

ありがとうございました。